

三重ふるさと新聞

# 創設45年を盛大に祝す 都市環境ゼミナールが記念例会



記念講演を行った林さん

1月20日、津市羽所町のホテルグリーンパーク津で、「都市環境ゼミナール」伊藤達雄会長らの創設45周年記念特別例会が催された。

同ゼミナールは昭和47年(1972)7月、三重県で行われた全国初の公開講座「都市環境デザイン」の理論と実践の受継ぎ者有志が中心となり、翌48年(1973)1月20日に設立。当時、四日市を中心とする代表者

れる公書や伊勢湾台風などの災害が国民的な関心事となっていた。

しかし、個々の事例の原因追及という狭い視点だけに捉われず、問題の根本である、より良い都市環境の創造に向けた学習や研究に産官学の有志で取り組み続けている。

三重大学名誉教授でもある伊藤会長は「創設以来、原則として毎月第3土曜の午後例会を開催しており、本日の例会は第541回に当たる。休講も昭和49年(1974年)の七夕豪雨の影響で三重大学に出入りできなかった時だけ。都市環境という言葉は、当時はまだ一般的ではなかった。都市をどのようにデザインし、整備していくかは人類の永遠の課題」と挨拶した。

その後、来賓の駒田美弘三重大学長、鈴木英敏三重県知事、舟橋裕幸県議会議長、前葉泰幸津市長が、長きにわたり先進

的な取り組みを続けてきたゼミの功績を讃えた。

記念講演はローマクラブ・ブルメンバールで、中部大学総合工学研究所教授、名古屋大学名誉教授、世界交通学会会長、日本環境共生学会会長の林良嗣さんによる「ローマクラブからのメッセージ・都市への展開」。

林さんは、世界各国の科学者、経済人、教育者などで構成され、資源や環境などに伴う問題に取り組んでいる民間のシンクタンクである同クラブの沿革や活動を解説。クラブの最初の研究報告書「成長の限界」は、世界の人口が増え続ける中、地球の限りある資源や環境負荷を顧みない無秩序な経済活動や開発が発展に限界をもたらすという内容で世界に大きな影響を与えた事を語った。

自身が携わった実例として、行き届かない道路環境に対する過剰なモーターゼーションが慢性渋滞を引き起こし、劣悪な都市環境に陥っていたタイのバンコクなども紹介。



挨拶をする伊藤達雄会長

現在の都市形成において、生活利便性だけでなく環境負荷などを考慮したQOL(クオリティ・オブ・ライフ)生活の質が求められる課題であることを示唆していた。